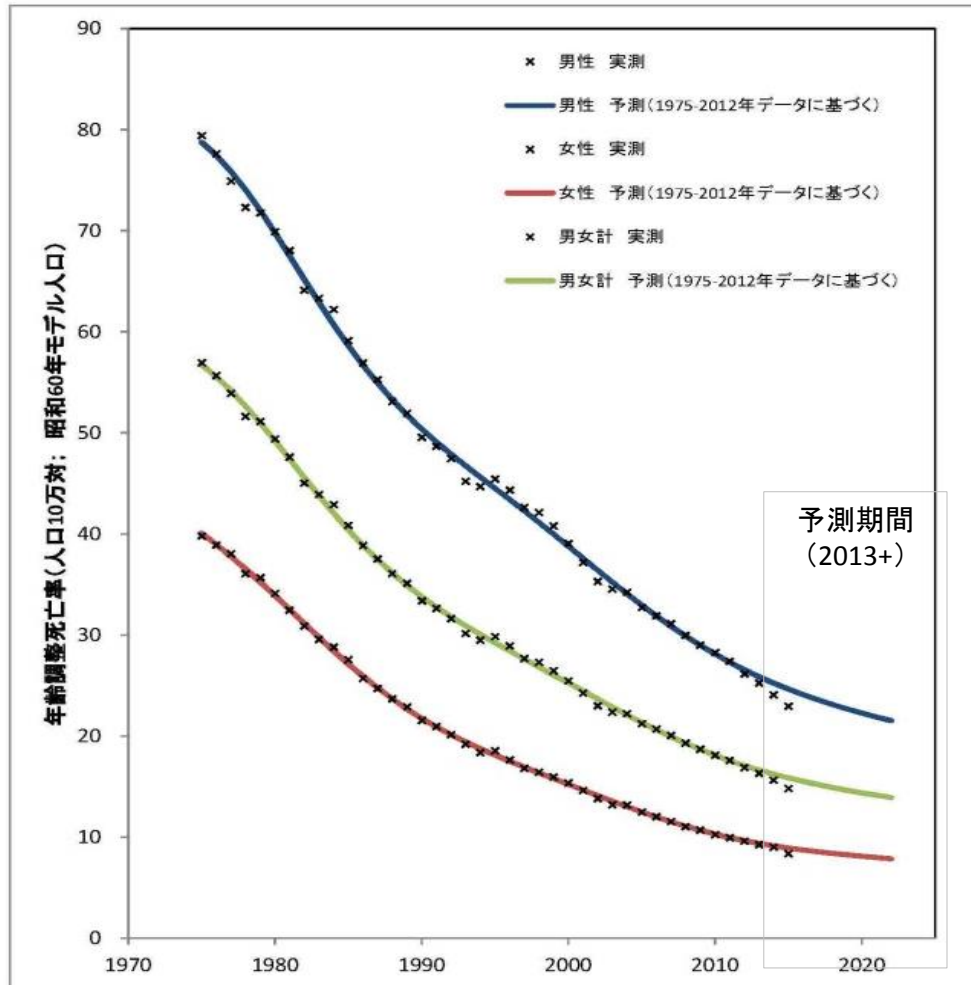
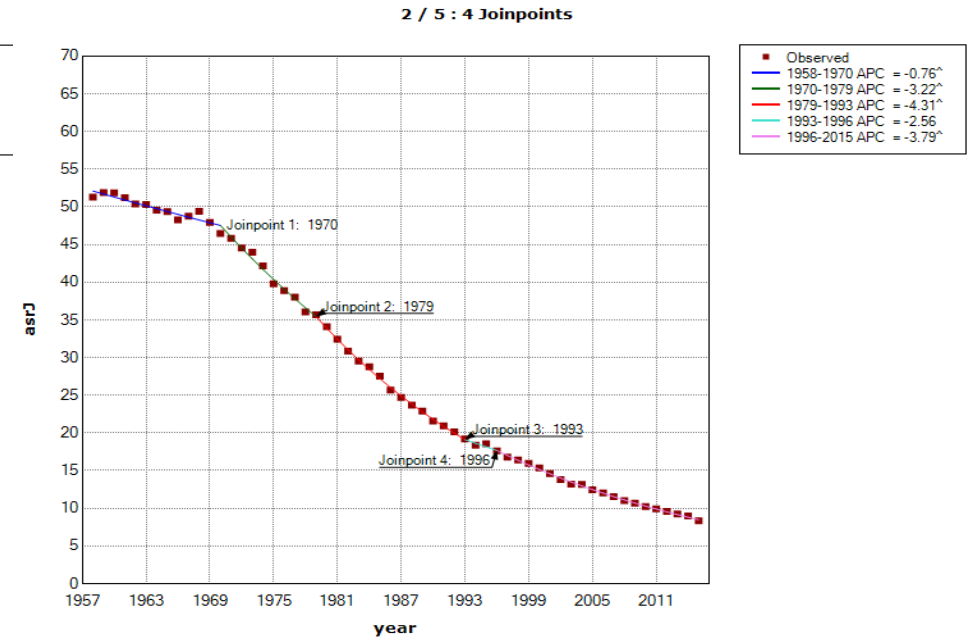
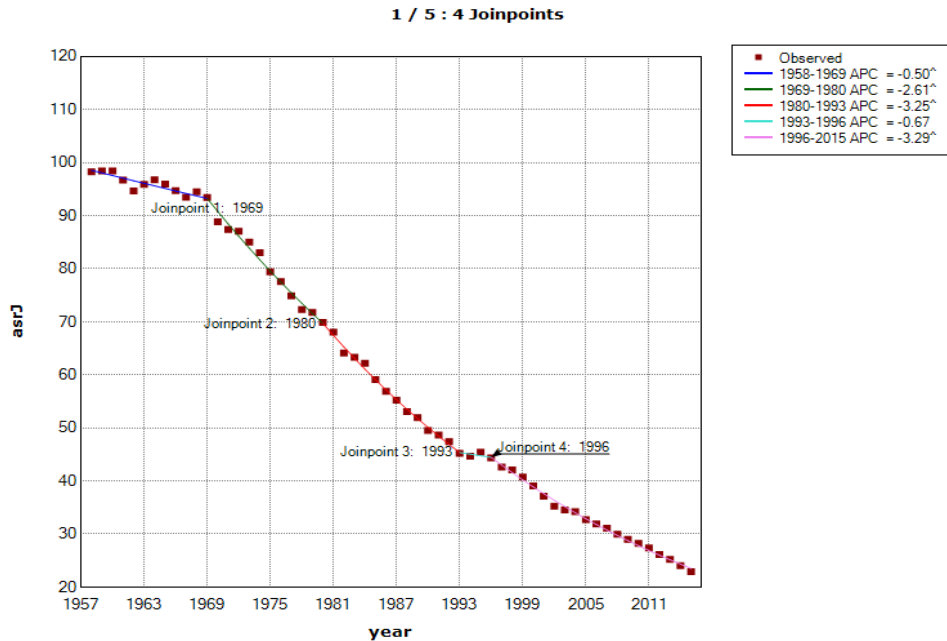


添付資料1. 胃がんの年齢調整死亡率の予測値と実測値(男女別)



- 2013年以降の実測値は予測値を下回った
- この傾向は女性より男性で顕著であった

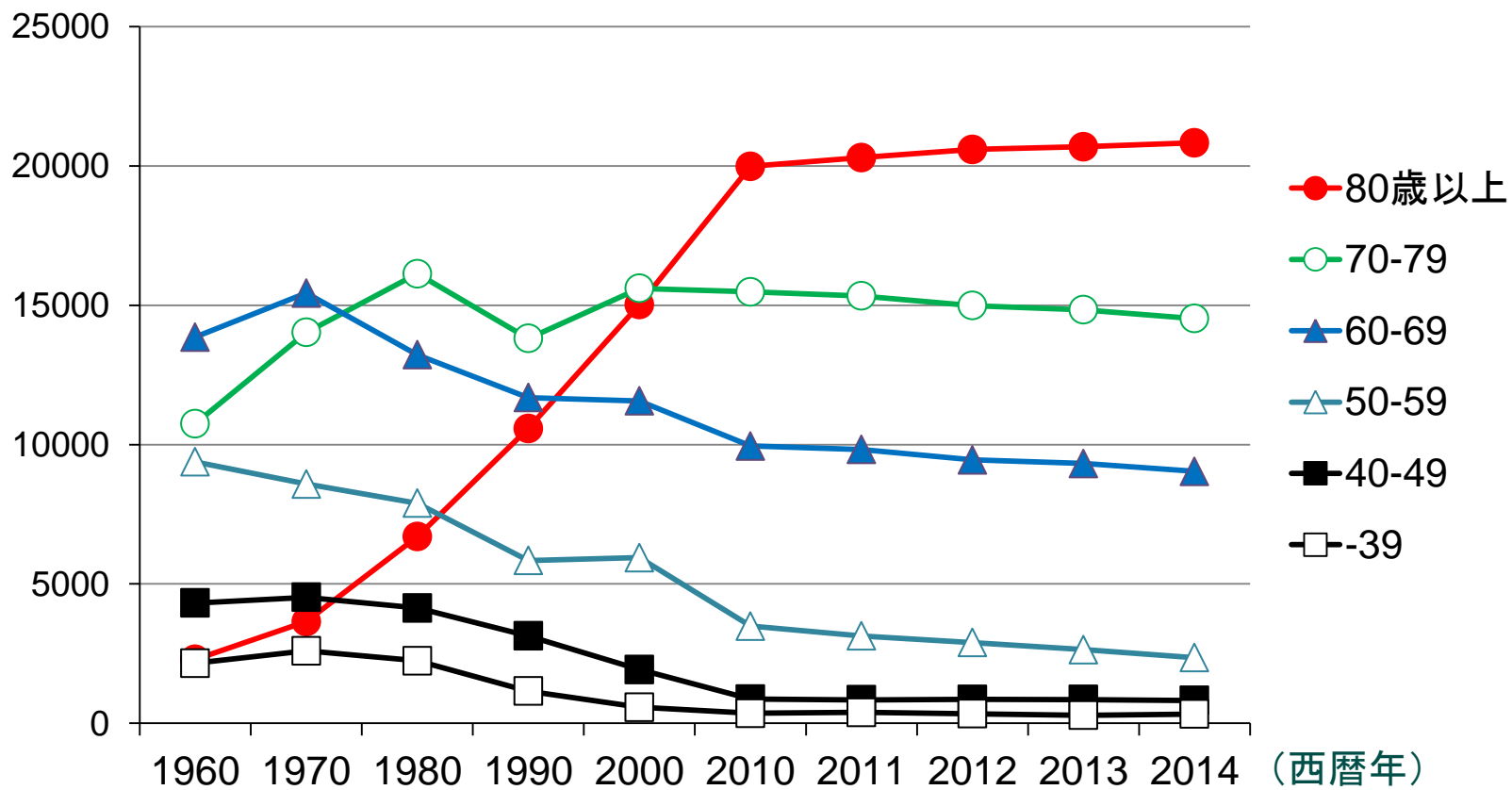
添付資料2. 1958～2015年胃がん死亡率のトレンド:折れ線回帰分析(男女別)



- 男女とも1990年代後半以降に統計学的に有意な変曲点(減少の加速)は観察されなかった

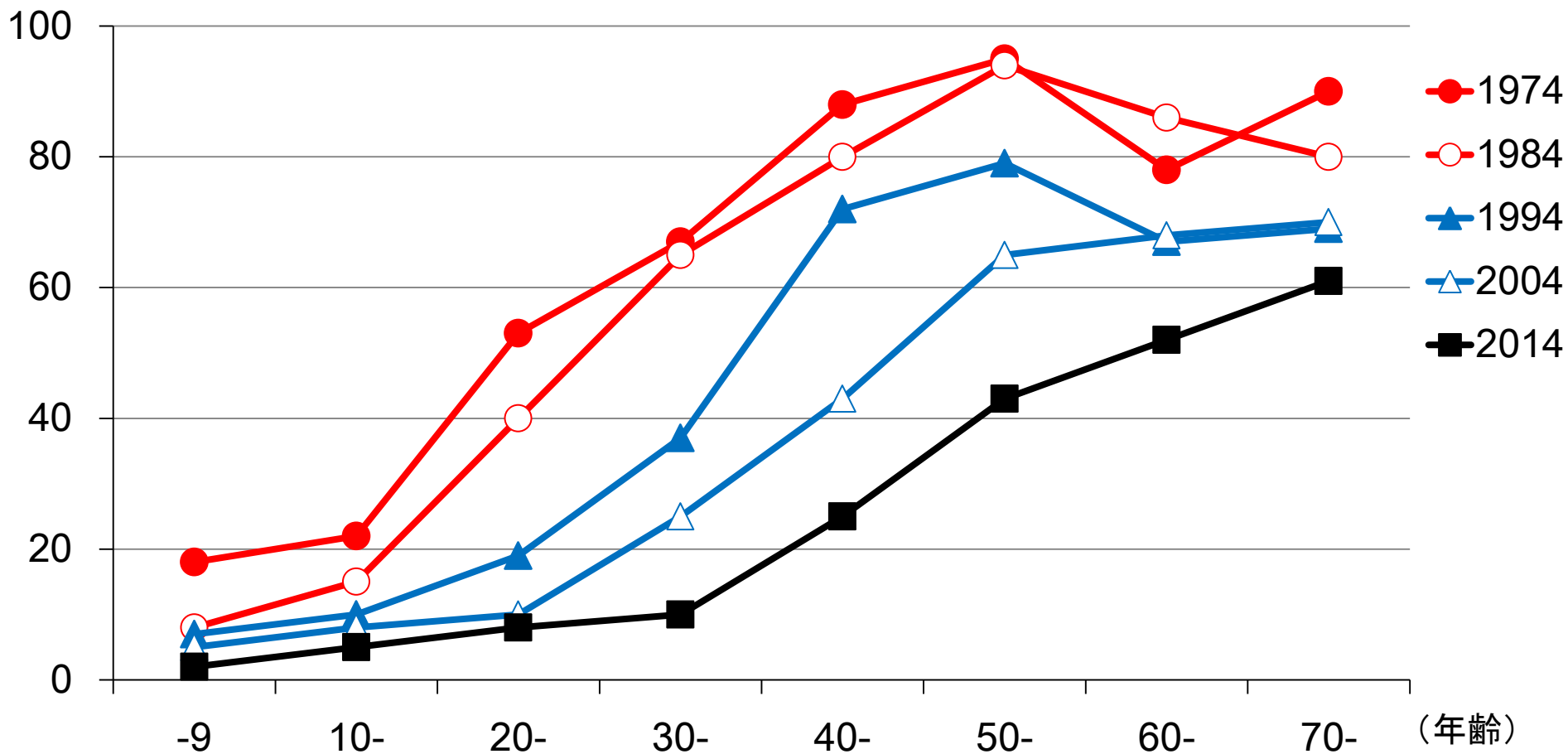
添付資料3. 年代別胃がん死亡者数の年次推移(1960年～2014年)

(死亡者数:人)

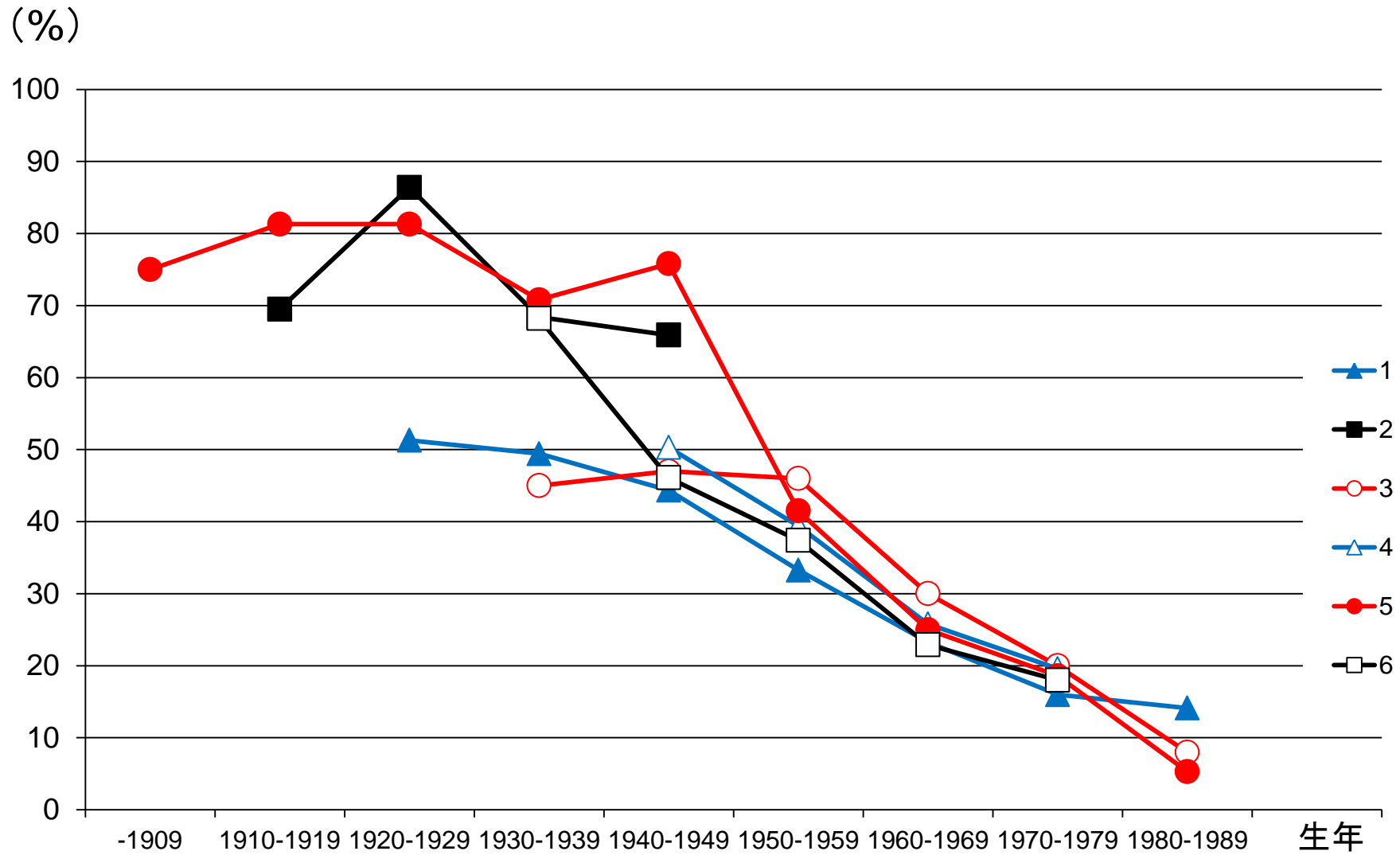


添付資料4. 年代別ピロリ感染率の年次推移(1974年～2014年)

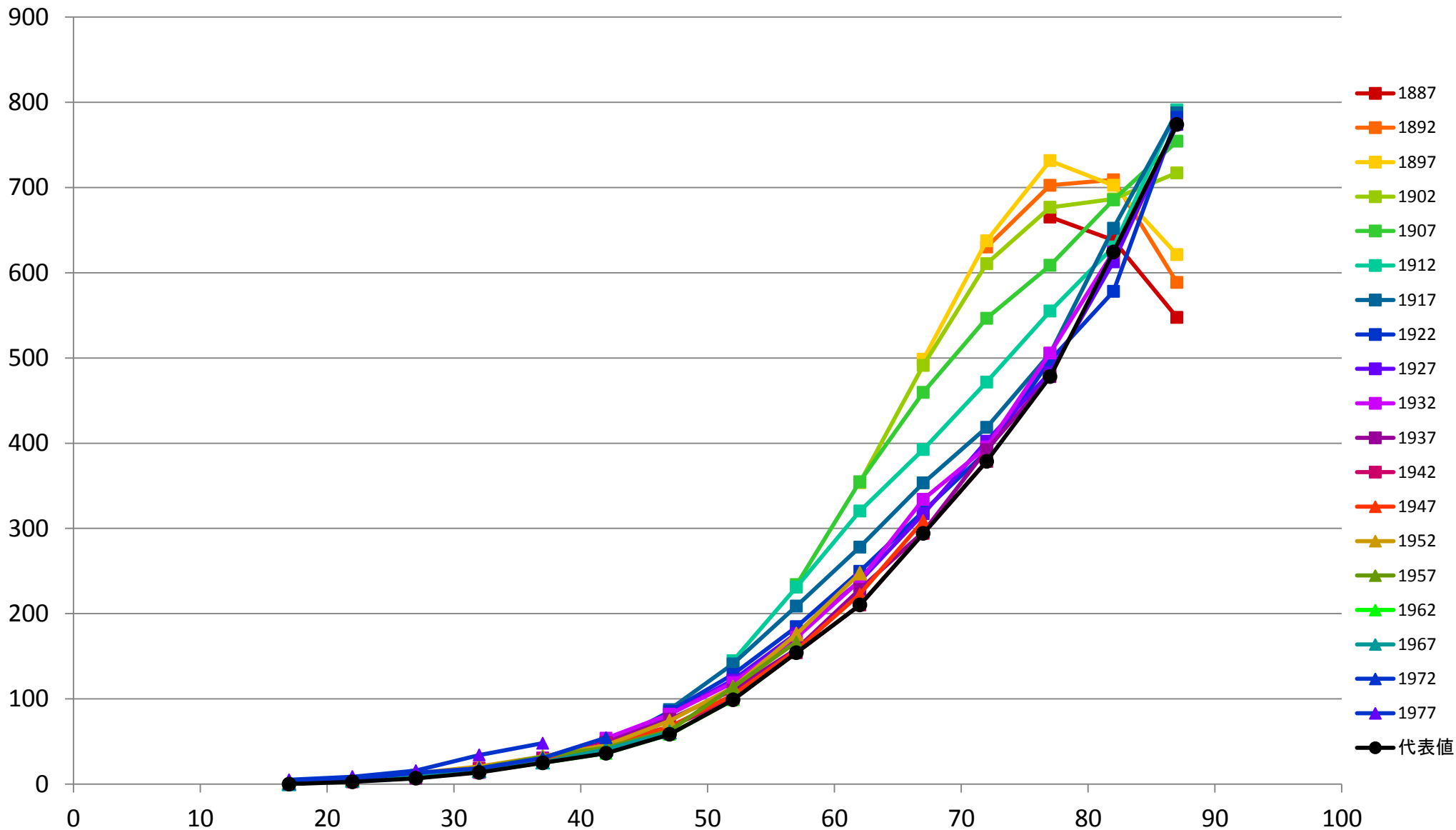
(感染率%)



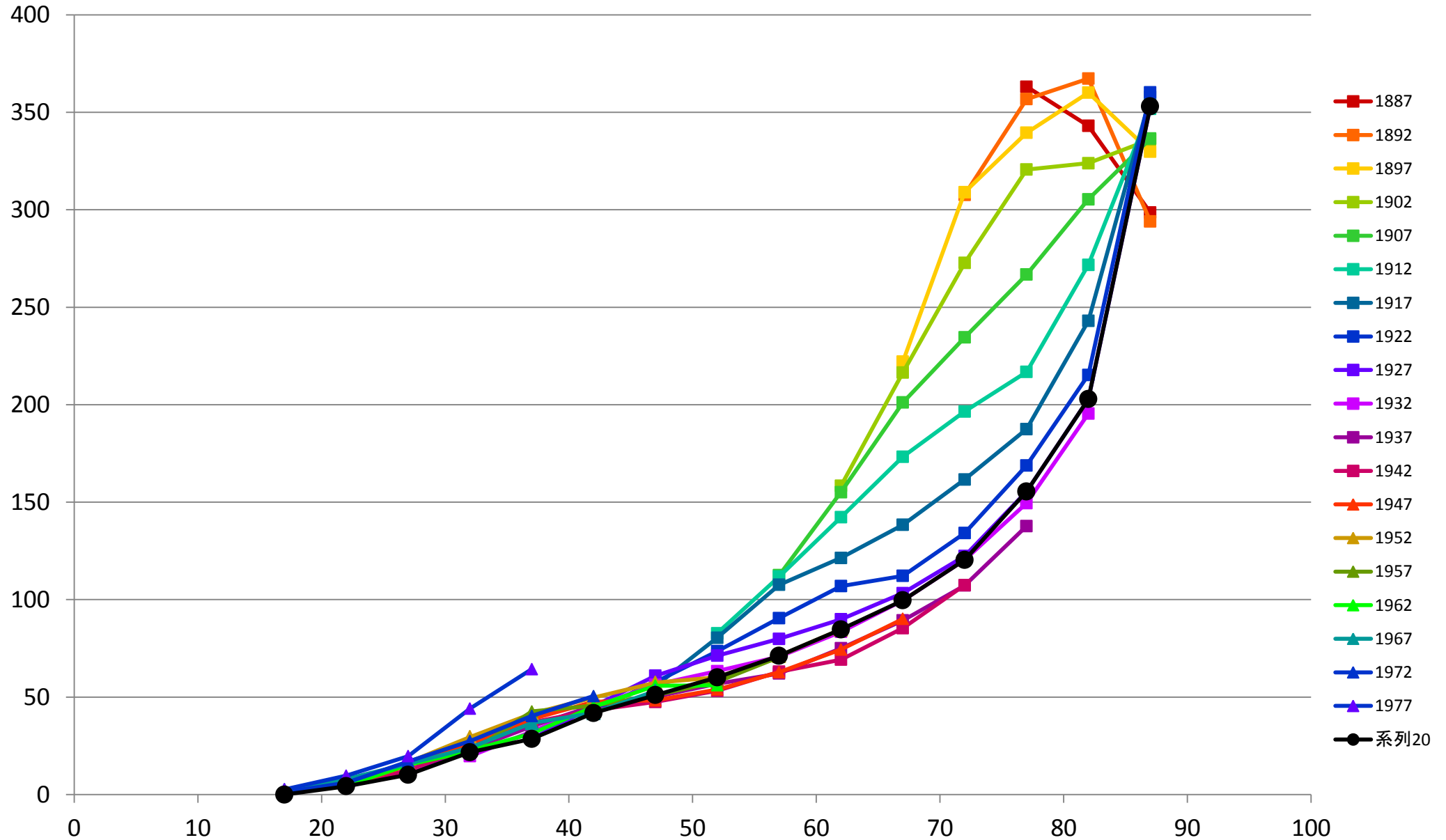
添付資料5. 生誕年とピロリ感染率の関係 (文献1~6より作図)



添付資料6. 男性のピロリ感染者の年齢階級ごと死亡率(人口10万人対)



添付資料7. 女性のピロリ感染者の年齢階級ごと死亡率(人口10万人対)

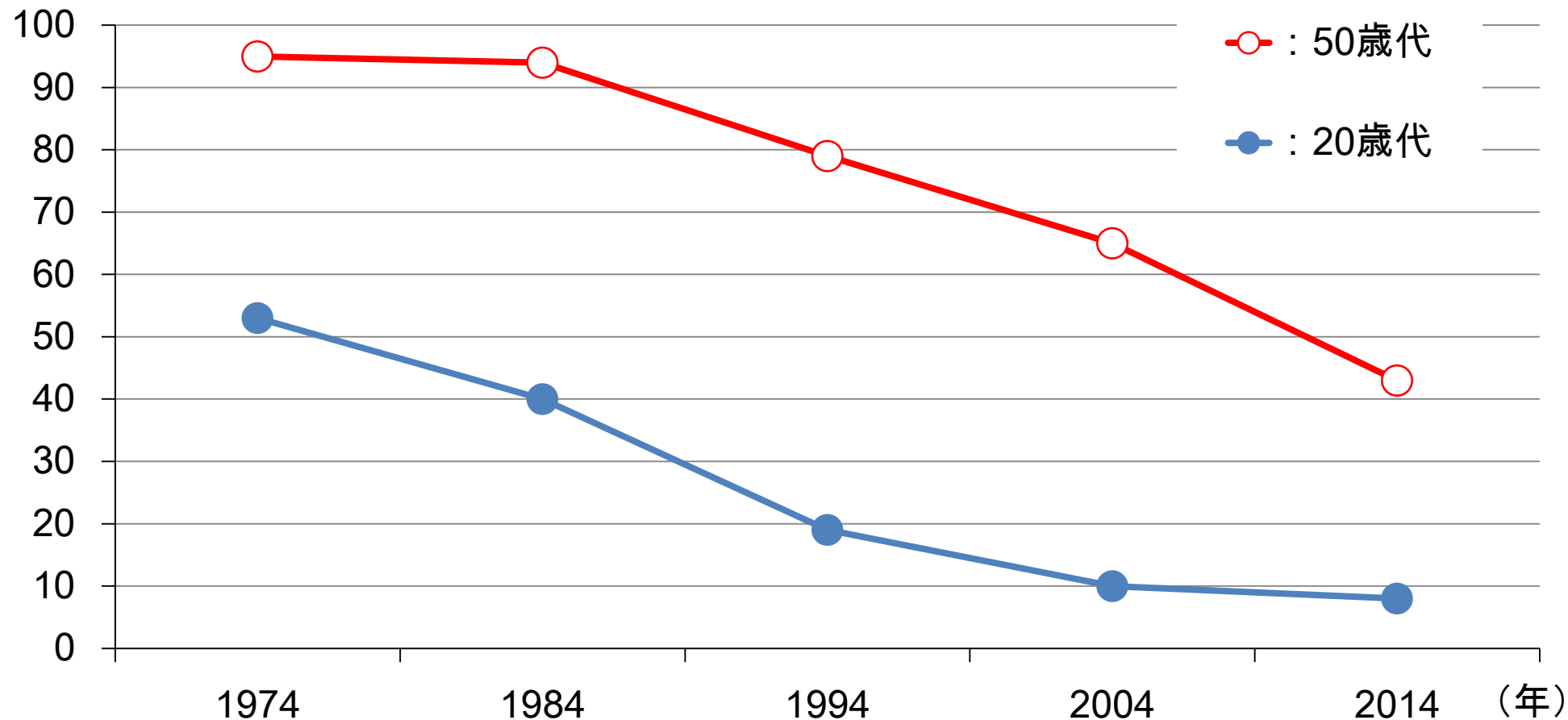


添付資料8. 胃がん死亡者の推定数と観察数(実測値)

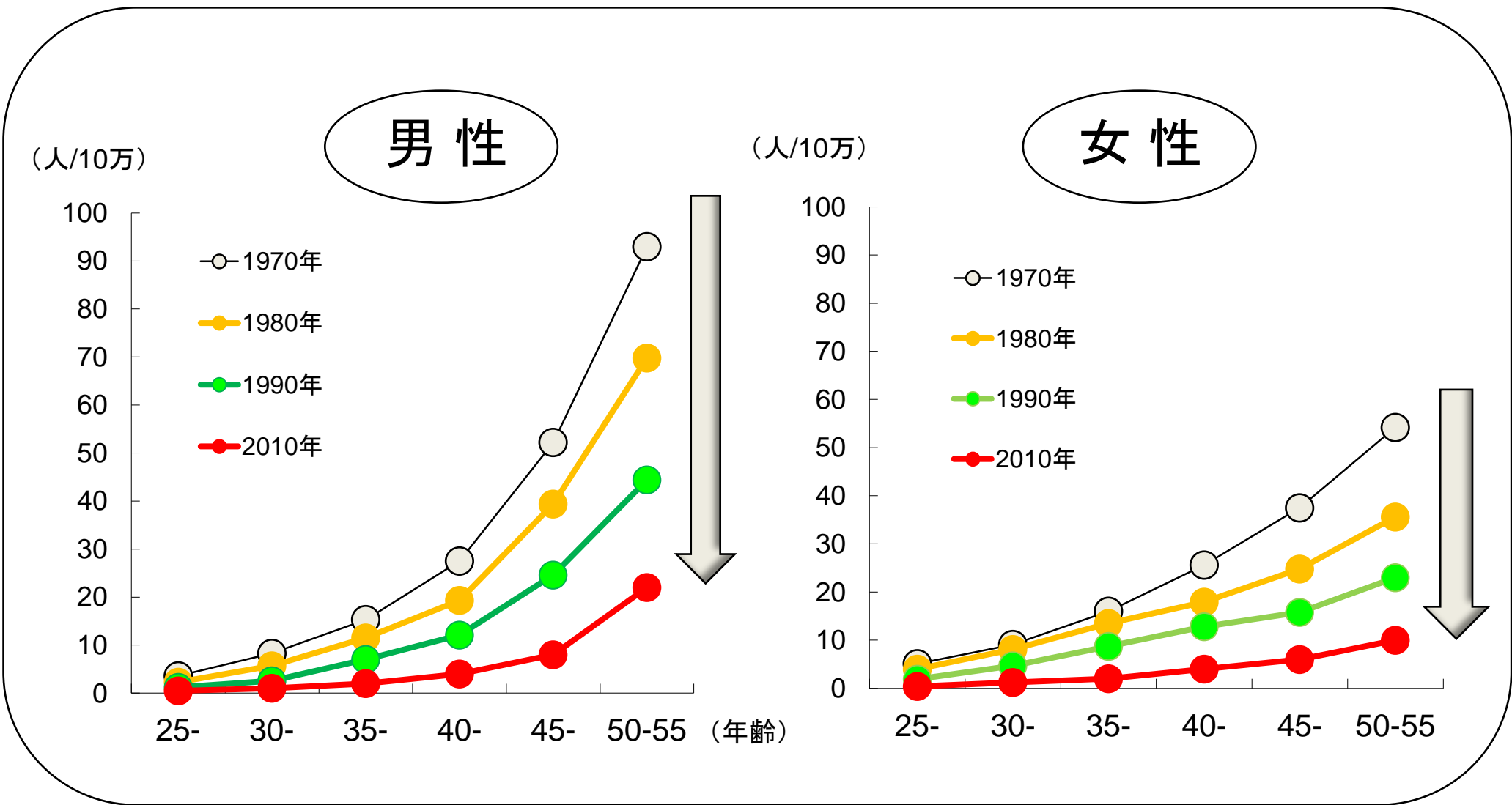
性別	暦年	推定数	観察数	差	比	χ^2
男	2002	32962	31788	1174	1.04	43.4
女	2002	18574	17425	1149	1.07	75.8
男	2007	33944	33143	801	1.02	19.4
女	2007	19008	17454	1554	1.09	138.3
男	2012	33570	32206	1364	1.04	57.8
女	2012	18790	16923	1867	1.11	206.0
男女計	2002	49213	51536	2323	1.05	109.7
男女計	2007	52952	50597	2355	1.05	109.6
男女計	2012	52360	49129	3231	1.07	212.5

添付資料9. 20歳代と50歳代におけるピロリ感染率の年次推移(1974年～2014年)

(感染率 %)

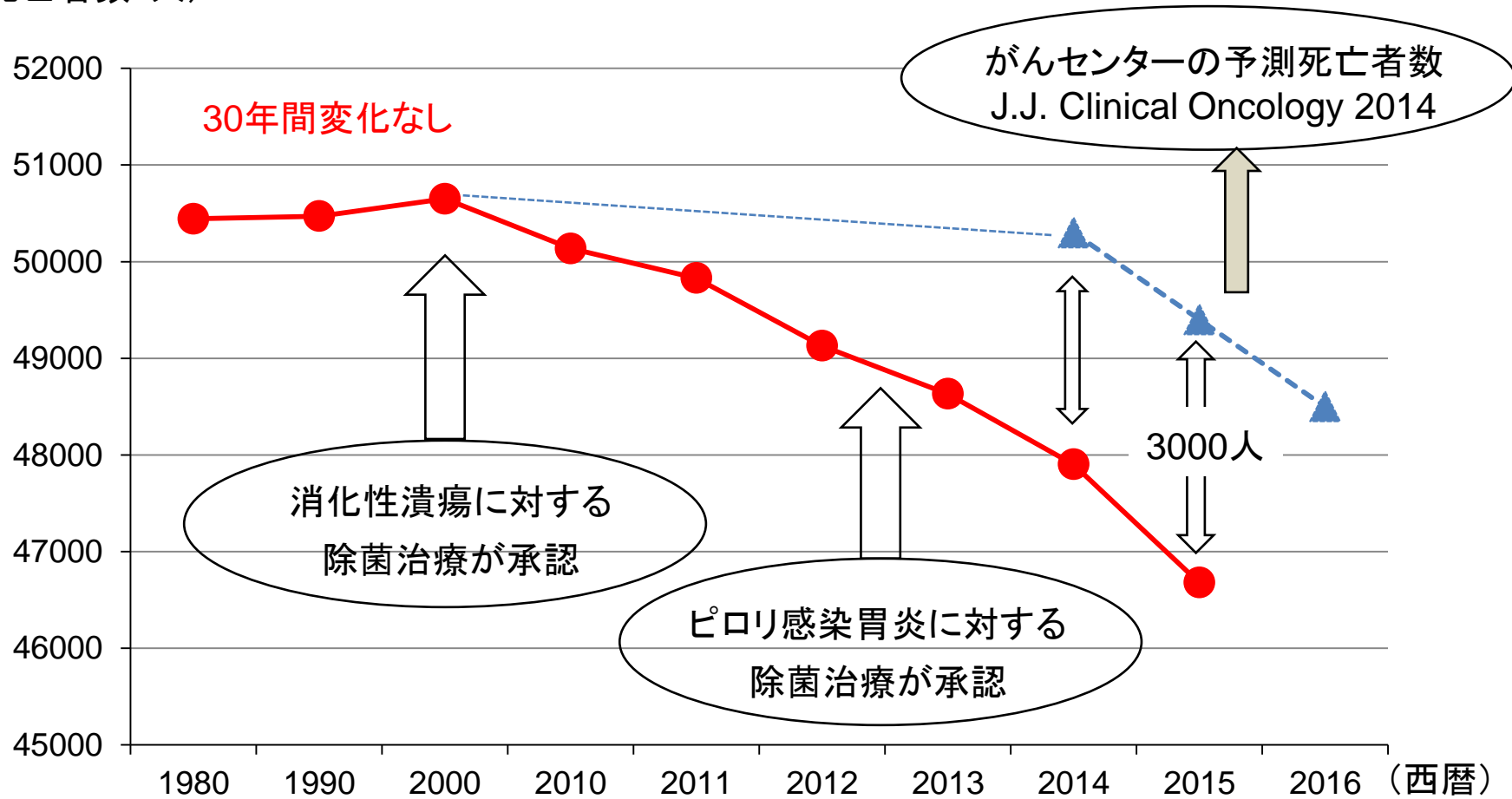


添付資料10. 50歳未満の胃がん死亡率(人口10万人対)の年次推移(1970年~2010年)



添付資料11. 除菌治療の保険適用と胃がん死亡者数の実測値と予測値 (厚生労働省:人口動態から作図)

(死亡者数:人)

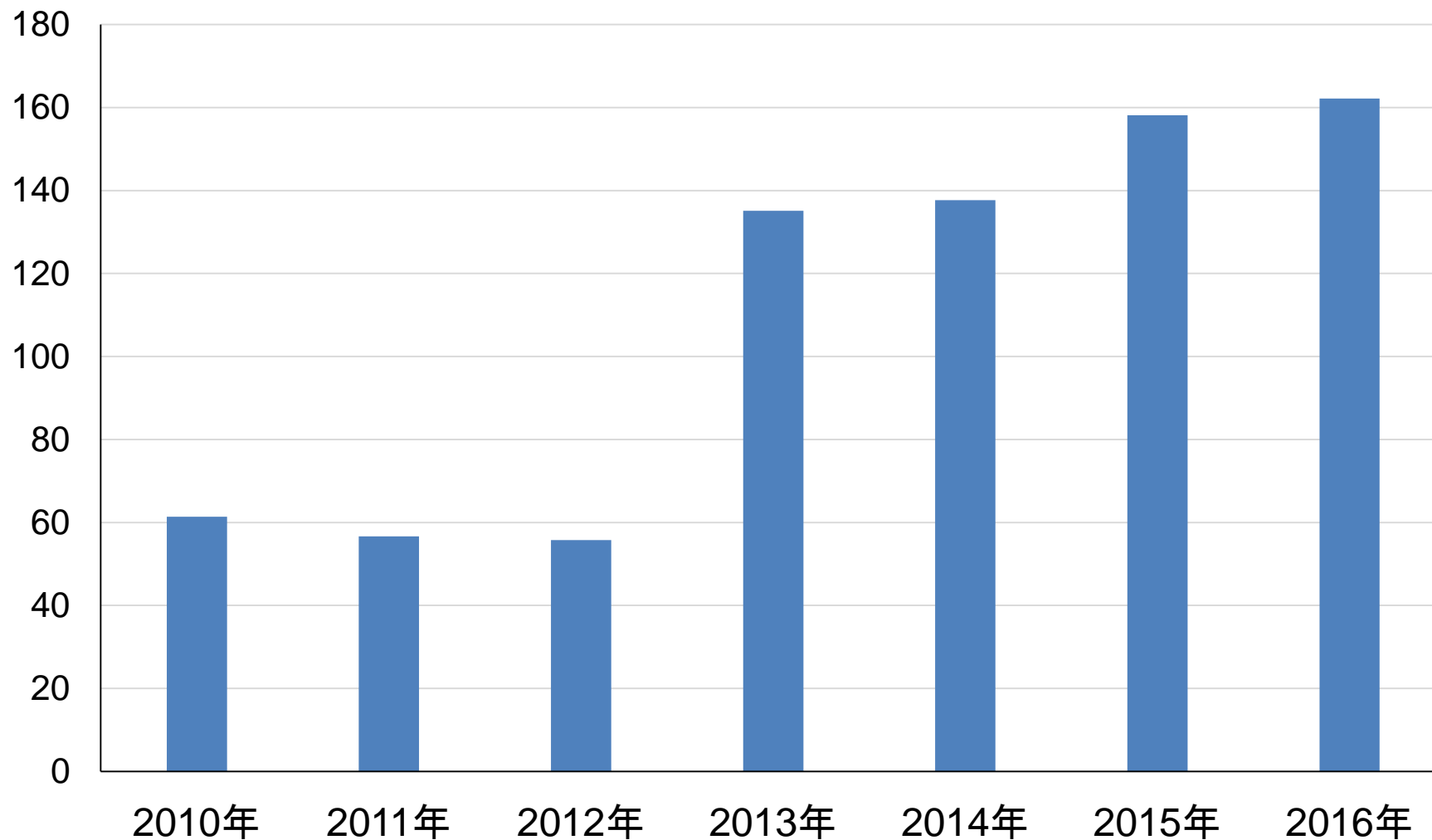


添付資料13. 北海道レセプトデータベースによる一次除菌件数(2010年～2015年)

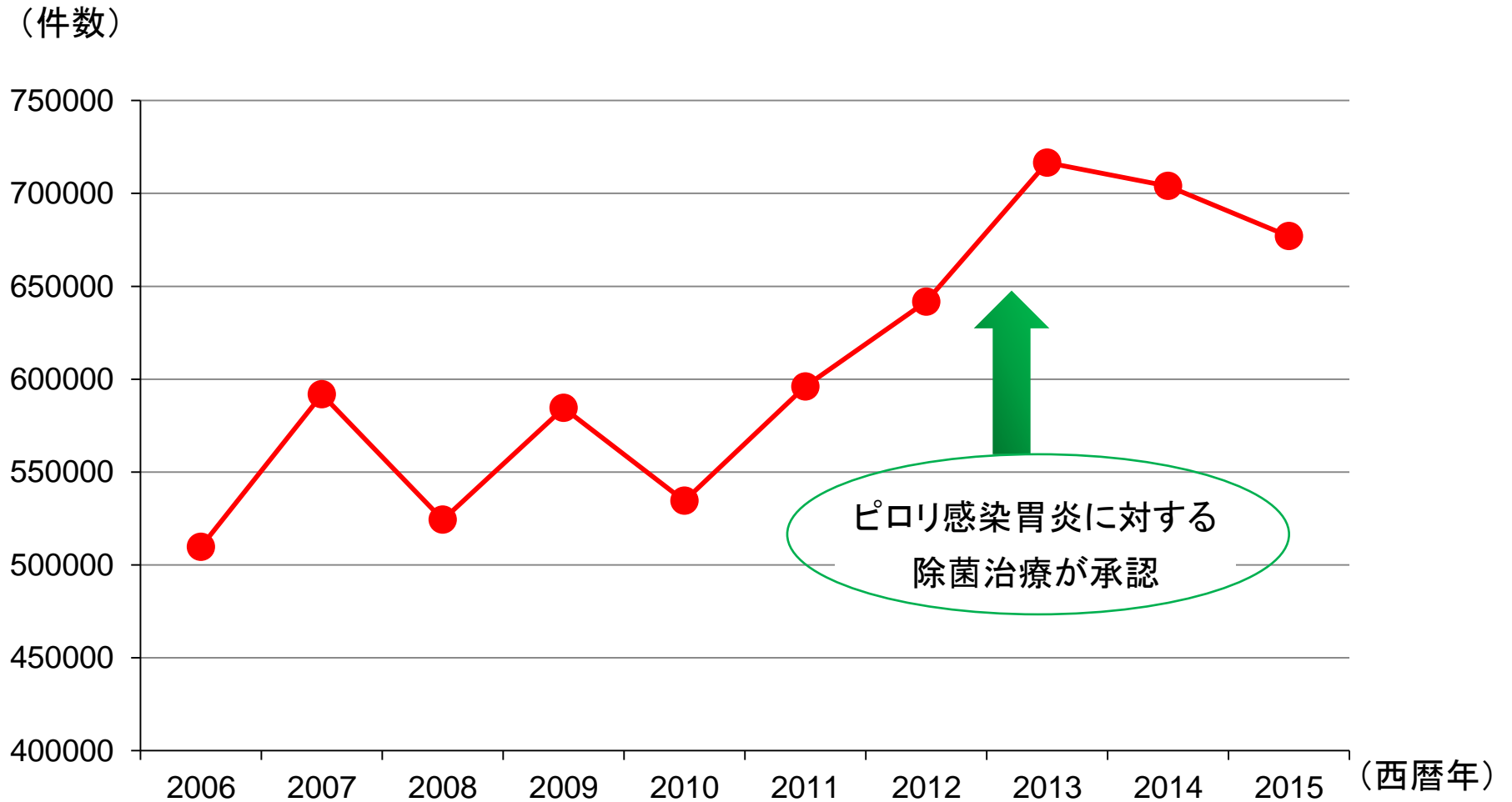
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
パック件数	6989	6407	6357	16718	20869	11825
個別処方件数	5421	5052	4923	10606	6972	20154
合計	12410	11459	11280	27324	27841	31979

添付資料14. 全国のピロリ一次除菌件数の推移(2010年～2016年)

(万件)

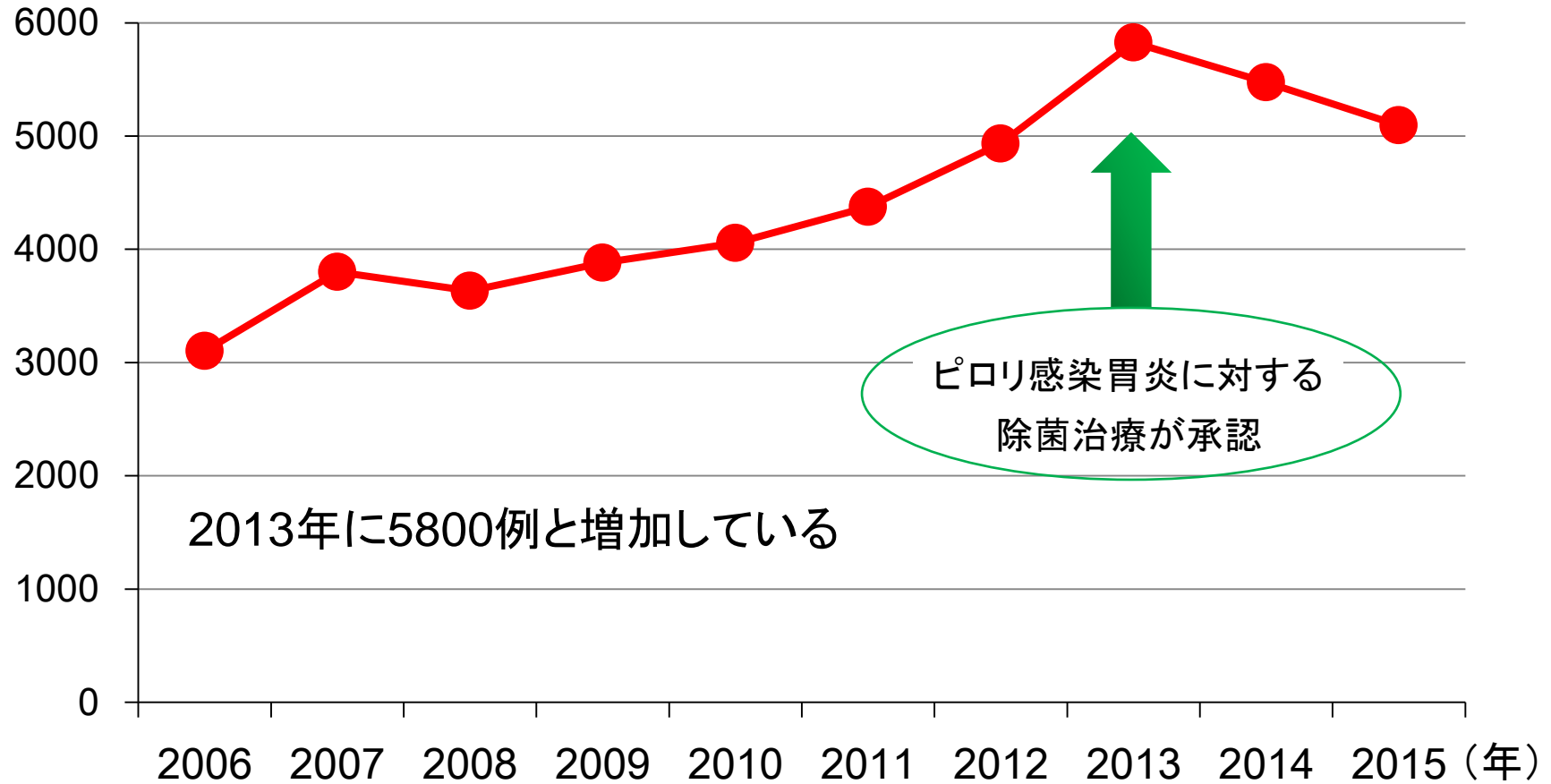


添付資料15. 上部消化管内視鏡検査件数の推移(2006年～2015年) 社会医療診療別統計より



添付資料16. 胃・十二指腸の内視鏡的腫瘍切除術数の推移(2006年～2015年)
社会医療診療別統計より

(切除件数)



添付資料17. 遺伝性胃がんの一家系

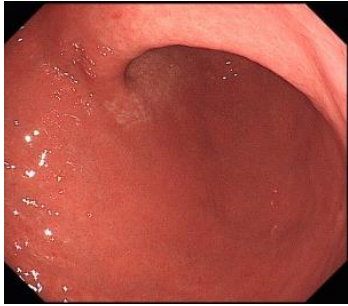
(CDH1遺伝子変異とピロリ感染動態および胃がんの進展)

	年齢・性	ピロリ感染	CDH1変異	胃がん(sig)
➤ 発端者	27歳・男性	陽性	陽性	進行がん
➤ 妹(長女)	22歳・女性	未感染	陽性	粘膜内がん
➤ 妹(次女)	20歳・女性	未感染	変異なし	なし
➤ 父親	49歳・男性	陽性	陽性	34歳で進行がん

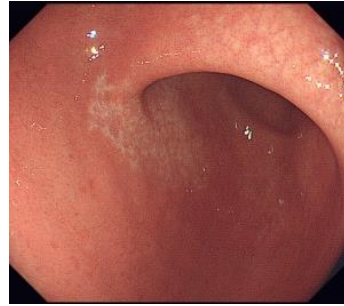
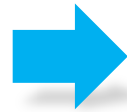
CDH1遺伝子変異とピロリ感染および胃がんの関連

- | | | |
|---------------------|---|------------|
| ① CDH1遺伝子変異＋ピロリ感染あり | ⇒ | 進行がん(低分化) |
| ② CDH1遺伝子変異＋ピロリ感染なし | ⇒ | 粘膜内がん(Sig) |
| ③ CDH1遺伝子正常＋ピロリ感染あり | ⇒ | 感染胃炎 |
| ④ CDH1遺伝子正常＋ピロリ感染なし | ⇒ | 未感染胃粘膜 |

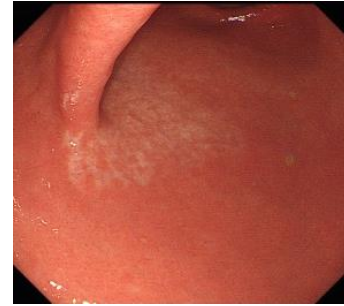
添付資料18. ピロリ未感染胃に生じた印環細胞がんの長期経過



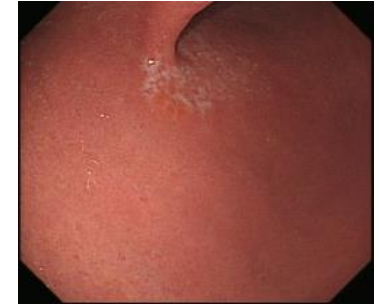
2011年



2013年



2015年



2016年

胃角前壁の褪色領域は指摘されていたが、

肉眼的診断のみで生検されずに5年間経過観察された

5年間変化なく、2016年にsignet ring cell carcinomaと判明

添付資料19. ピロリ感染による胃がんの増殖と進展(仮説)

